

すずかみん報

第130号
2009年4月

日本共産党鈴鹿市議団
市議会の報告

長良川導水 実質的に除外した計画変更

上水道事業 やっと身の丈に合った計画に

一日最大給水量

10万トン以下に引き下げ

鈴鹿市水道局は08年12月、「第5期拡張計画」を大きく見直し、これまで過大に予定していた市民の飲み水の給水量を、実態に合った水量に引き下げました。見直し後の給水量は、当初計画（2000年）の76%にダウン、また長良川河口堰からの導水の受水量は、17%にダウン（しかも実際には木曾川用水からの給水）となり、実質的に長良川導水を除外した大幅変更となっています。（別表）

上水道第5期拡張計画の変更内容
(単位・日量・トン)

	当初計画	変更計画
年度	2000年	2008年
最大給水量	125,000	95,400
自己水源	95,400	95,100
県水受水	29,600	18,800
内長良導水	13,000	2,200



過大な投資やめ、料金も据え置き

共産党市議団はこの第5期計画の最初から、三重県企業庁から押し付けられた「長良川導水ありき」だと指摘し、日量10万トンを一度も超えたことのない給水実績を大きく上回る、12万5千トンもの過大な計画は見直すことを求めてきました。

また市民運動「鈴鹿の安全でおいしい水を守る会」も、長良川河口堰の水を飲み水に入れないでとの声を市民の中に広げました。今回の計画変更は、この間の議会での論議や市民の声を反映し、鈴鹿市の身の丈に合ったものになりました。過大な投資をやめ、当面は水道料金も値上げせずに経営して行ける見通しです。

理不尽なホンダ期間工雇い止め

解雇撤回を申し入れる

十分体力あるのに、真っ先に首切りとは



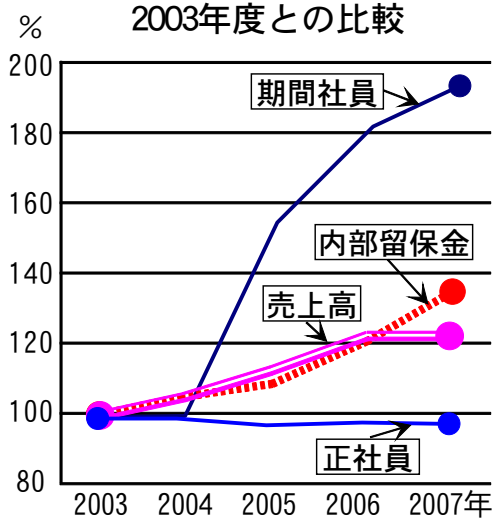
森川ヤス工 市議

森川ヤス工議員は、ホンダ鈴鹿製作所が1月に突然発表した「千七百六十人の期間工全員の雇い止め」について、3月議会で質問しました。これまでも毎年売り上げと利益を伸ばしてきた大企業が、わずか1年業績が落ち込んだだけで真っ先に労働者の首切りとは、許されないし、鈴鹿市の経済にも雇用情勢にも大きな影響を及ぼすものであり、その撤回と雇用維持を求めるべきだと、川岸市長にせまりました。ホンダは内部留保を5兆円余も保有してい

て、十分な体力があり、その一部を使うだけで、首切りはせずに済みます（別表）。共産党市議団は国会議員団らと共にホンダ鈴鹿製作所や東京本社へも、解雇撤回を直接申し入れました。この3月から4月にかけて、契約打ち切りで多くの労働者が解雇され、ハローワーク鈴鹿は大混雑となっています。大企業の「社会的責任」がきびしく問われています。



ホンダの経営指標
2003年度との比較



失業者支援や

中小企業支援も

また森川議員は、失業者への支援として、不足する公営住宅にかえて民間アパートへの家賃支援を行なうこと、中小零細業者の融資返済猶予、期間延長、利子補給などの対策を求めました。

市財政にも黄信号

40億円の 税収落ち込み

ホンダの営業不振は鈴鹿市の財政にもじかに響いています。09年度予算では、法人市民税が40億円も落ち込み、当面は財政調整基金からの繰り入れでしのぎますが、不況が長期化すれば10年以降の見通しが立たなくなりそうです。

国保税の 値上げは見送りに

国民健康保険も、08年度は5億円の基金を繰り入れでもなお赤字の見通しとなり、09年度には国保税値上げの動きがありました。

しかし、自営業の経営不振や失業者が増える情勢から、本年度の値上げは見送り、当面の赤字分は一般会計からの繰り入れでまかなうことになりました。

生活保護行政

困っている市民に 真に役立つものに



石田議員は生活保護行政について、12月議会で紹介した。3月議会では市民の実態に合った保護の適用について、ただしました。



石田秀三 市議

巨額の不正請求を見逃したルーズな行政の体質

昨年2月に発覚し、9月には2名の逮捕、12月には有罪判決となった介護タクシー不正請求事件では、「越山グループ」と呼ばれる受給者側の詐欺行為は明らかになりましたが、一方で2千万円もの不正をチェック出来なかった、見逃した行政側には、どこに弱点があったのか、はつきりしていません。

3月末に出された外部委員による「生活保護調査委員会」の報告書では、市の生活保護行政の問題点が、きびしく検証されました。報告書では、「ズサンで無責任な事務処理が『仕事の仕方』として生活支援課の中に定着し、『組織の風土』と化していた。そこを越山らにつけ込まれた」として、医師の意見書やタクシーの見積書など必要書類を取っていないかった、課長決裁なしで支払い続けた、など法令違反、担当者任せの事務処理が長年続いていたことが明らかにされました。報告書は、「不正受給へのけじめ」とともに、事

「ズサンで無責任な事務処理」ときびしい指摘

件の背景となった鈴鹿市役所の「組織風土」の改革を強く求めています。市当局は急いでこの提言を受けた改革を具体化しなければなりません。

資産価値のない自動車も手放せとは？

生活保護の申請のさい問題になるのが、「自動車の保有」です。国の指導は、原則認めないとなっていていますが、鈴鹿のような町では自動車がないと、仕事を見つけないことも日常生活もたいへんな不便を強いられま

が基準を決めたのは昭和38年、いまは車なしでは生活できない、かえって自立を阻害する」として、処分しても価値のない古い自動車まで一律に手放せという指導は実態に合わない、見直しを求めました。

石田議員は、「自動車は資産だ、ぜいたく品だと国

介護保険料

半数の人は 減額になります



所得区分を 6段階から 11段階に改善

09年度から介護保険事業が第4期(3年間)にはいり、保険料も改定となりま

第3期までに6億円も積み立てられている基金を使って保険料を引き下げよう、事業主体の鈴鹿亀山広域連合に早くから提案し、申し入れをしてきました。

今回公表された第4期計画のなかで広域連合は、「社会情勢からなるべく保険料の上昇を抑える、きめ

第4期介護保険料の段階別金額 および第3期との比較 (単位:円)



所得段階		所得要件	保険料年額	第3期との差額
第3期	第4期			
第1段階	第1段階	生活保護、福祉年金受給	19,230	-4,710
第2段階	第2段階	世帯非課税・80万円以下	19,230	-4,710
第3段階	第3段階	世帯非課税	36,060	+150
第4段階	第4段階	世帯課税・80万円以下	39,910	-7,970
	第5段階	世帯課税・本人非課税	48,090	+210
第5段階	第6段階	本人課税・125万円未満	51,930	-7,920
	第7段階	125万円以上	60,110	+260
第6段階	第8段階	200万円以上	67,320	-4,500
	第9段階	300万円以上	72,130	+310
	第10段階	600万円以上	84,150	+12,330
	第11段階	1000万円以上	96,180	+24,360

細かな段階数設定と保険料率設定をし、基金を全て投入した」として、基準保険料をほぼ横ばいの四千六十五円に抑えました。そして所得階層を6段階から11段階に増やし、保険料の幅も基準額の〇・四〇二・〇に広がりました。その結果として、65才以上の加入者の54%が、昨年よりも保険料が減額となります。(別表)

低所得の人に やさしい方式に

これによって「本人は所得が低く非課税なのに、世

帯に課税者がいると保険料がはね上がる」という矛盾が一定緩和され、「応能負担」に近づきます。なお、実際の保険料は、8月まで仮算定として昨年度の額で徴収され、10月からの本算定で精算されます。

生活相談など お気軽に連絡下さい

石田 秀三 TEL 371-0423
鈴鹿市伊船町2751
森川ヤスエ TEL 384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34